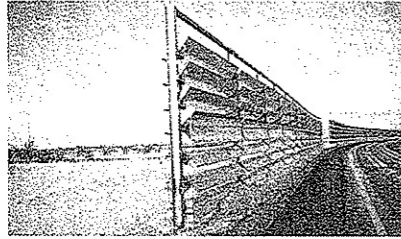


新製品・新工法

上下分流高性能防雪柵 飛雪を上下に振り分け ドライバーの視界を確保

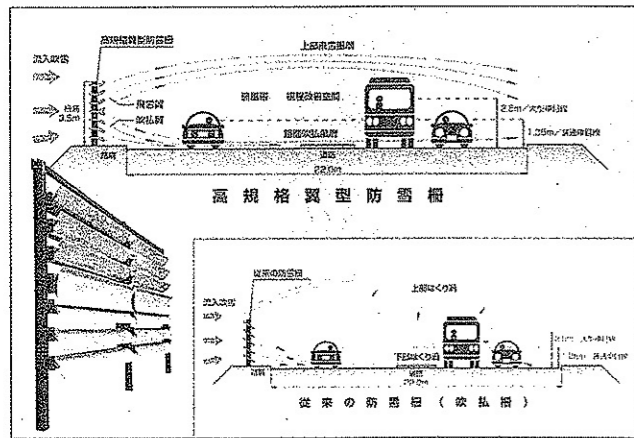


県内でも長年の実績がある防雪柵メーカーの理研興業(株)(本社・北海道小樽市・柴尾耕三社長)は、独立行政法人・防災科学技術研究所と佐藤建設興業(株)(本社・東京都)の共同開発により、実用化に当たり同社のノウハウを生かした「上下分流高性能防雪柵」の生産を開始した。写真

柵に使用する飛雪板は、佐藤建設工業の嶋田潔氏が飛行機の翼からヒントを得て考案し、受風面積や抗力係数が小さく、空力的合理性に優れた翼型を採用することで、吹雪の風力を減速させることなく、滑らかに風下側に誘導し、吹き溜まりや雪庇の発生防止に大きな効果があることに着目。独立行政法人・防災科学技術研究所とともに、共同研究を進めてきた。これによ

り、中央翼で飛雪を上下に分け、上部翼群が飛雪を上・遠方へ飛ばす一方で、下部翼群には吹き払い機能を持たせた。設置場所の平地・盛土などの設置条件下で最良の性能が得られる基本構造をめざし、低温風洞での吹雪実験や実物模型による野外実験などで実証を確認しており、東北地方整備局管内でのフィールド実

験も実施され、高い評価を受けている。また、冬期間を除く期間には飛雪板を下部に折り畳み、収納することで景観にも配慮されている。なお、問い合わせ先は理研興業(株)東北営業所(青森市古川一丁目一〇一・三・青森古川ビル2F、TEL(〇一七)七三五一一八八八、FAX(〇一七)七三五一一二五二一まで。



備局管内でのフィールド実